

幼保連携型認定こども園 大山田こども園

〒518-1422 三重県伊賀市平田7

電話:0595-46-0008

Mail:ooyamada@n-ikuseien.jp

HP:https://www.n-ikuseien.jp/ooyamada/



Mail



HP

子どもは地域の宝。 地域愛のある人に 育ってほしい!

乳幼児保育の長い歴史と伝統を受け継ぎ、こども園としてこの春に再出発した大山田こども園。その前身、旧大山田村立大山田西保育園のご出身で、親子三代にわたって現大山田こども園に縁のある森下敦司さんに、こども園の役割と期待を語っていただきました。



住み慣れた大山田

大山田は、旧伊賀街道平田宿の名残や、400年の歴史を誇る植木神社の例祭など、広がる田園風景に伝統が息づいています。

森下さんは旧大山田村、現伊賀市平田の生まれ育ち。ご自身が旧大山田村立大山田西保育園を卒園した後も、東西二つの保育園が合併してできた伊賀市立大山田保育園、そして民間委託となった現大山田こども園と、お子様、お孫様を通じて、住み慣れた地域で乳幼児の成長を見守ってきました。



「自分は、おばあさんに手を引かれて保育園に通っていた。でも帰りは、よく一人で帰っていたよ。今は、そのようなことをしたら大変。当時は村も大らかだった。」日焼けした体を揺らし、にこやかに答える森下さん。

「周りは自然だし、身体はよく動かした。また小学生になると、道具も自分で作る。竹を切り出し、竹筒を作っては豆鉄砲でよく遊んだ。おかげで手先が器用になったね。」と、小さい頃の思い出を語ってくれました。



地域愛で包み込む

私たちの教育・保育の柱は、子どもたちの「生き抜く力」を育む事だと考えています。この大山田の地で生きる喜びを得る。人としての基礎形成を育む大切な時期だからこそ、歴史と伝統を持ち、自然豊かな大山田の「地域愛」で包み込むように、子どもの成長に寄り添ってまいります。(裏面に続く)

こども園の役割と期待

「地域の中で、こども園の役割は昔も今も変わらない。地域と一体になってのびのびと育ててくれればと願うし、子どもは地域の宝だから、どんな手伝いでもするよ。」と心強い応援メッセージ。さっそく地域にある竹、木材や身の回りのものを使ってどんな遊びができるか、また大山田の自然や暮らしぶりを感じながら地域の方とどんな交流ができるか、松井園長と話が弾みました。



森下さん(左)と、松井園長(右)

「今の大山田こども園を見ると、子どもがたくさんいて活気がある。この活気が将来にわたって続くよう、我々も頑張らんとあかんね。」森下さん自身が地域を愛して止まないように、子どもたちにも地域への愛をたくさん持ってほしい。そのように願っているようでした。

名張育成会の活動、ひとつずつ！

各施設の様子をお伝えする「MiRAiレポートブログ」から
選り抜きの話題をご紹介します。

はてなブログ MiRAiレポート 検 索

レインボークラブ

FM三重「みえ森と緑の探検隊！」で紹介されました！



8月14日(木)、レインボークラブの「TSUNAGUどんぐりプロジェクト」が、FM三重の番組「みえ森と緑の探検隊！」で放送されました！

2022年秋にスタートしたこのプロジェクトは、ただの環境保護活動ではありません！どんぐりを拾い、苗木に育て、地元の山に植えるという一連のプロセスを通して、豊かな森づくりを目指すと同時に、生活に困っている

方々への就労訓練にも役立っています。今では、約1,500本もの苗木が元気に育ち、約150本の苗木を地元の山に植えることができました！

「自然を守ること」と「社会貢献」の両立を目指しているこの素晴らしい取り組みを、もっと多くの方に知っていただき、応援していただけるよう、ぜひインスタをご覧ください！

生活介護くとも



今年も開催しました～とも夏まつり

今年も、「とも夏まつり」開催しました。食べ物に飲み物、ゲームにお菓子のつかみ取り等…今年もたくさんお店が並びました！！そして流しそうめんが、夏祭りに初登場～。

カラフルな色のそうめん・ミニトマト・チーズ…色々なものが流れてくるのですが、たくさん取れた人・タイミングが合わず流れていってしまった人・少ししか取れなかった人…それぞれですが、みんな全集中！！真剣なまなざしでそうめんにとらめっこ！他にもたくさん楽しんでくれていました。

今日は『ともに働き』ではなく、『ともに元気で』『ともに楽しく』の充実した1日になりました。今年も、たくさんのご家族の方にお手伝い頂き、誠にありがとうございました。

今月紹介した記事はすべて、「MiRAiレポートブログ」と「Instagram」に詳しく掲載しています。ぜひご覧ください▶



MiRAiレポートブログ



TSUNAGU
どんぐりプロジェクト

くらしサポート ゆっくる

#25 マンションの管理人



昨年12月に新しく入居され、グループホームは初めてという利用者さん、当初は表情も硬く緊張されていましたが、今では表情も柔らかく、女性支援者に「ねえやん」と、気さくに話をしてくれます。

とある日に彼女の居室を訪問すると、「こんにちは。私の名前は〇〇です。よろしくお願いします。」とお気に入りのクマのぬいぐるみの手を振って、丁寧に挨拶されます。その大切なクマちゃんには、まるで自分の子どもに接するように、柔和な言葉で、毎日「おはよ～」、「またね～」と話しかけます。

「ねえやん、いつもありがとうございます。あんな達様のような、マンションの管理人様がいてくれるから安心です。」と言う彼女の気持ちに寄り添い、安心感を得て頂く。決して、否定せずに笑顔で受容、共感する。彼女が「マンションの管理人」と思われているのであれば、「マンションの管理人」として、寄り添って彼女を支援していきます。

(表面より) 地域の愛をいっぱい浴びて「生き抜く力」を育む。

「生き抜く力」とは、様々な経験を通して人のぬくもり、生きる喜びを感じる力。その上で、困難や失敗という、壁を乗り越える力の事だと考えます。

失敗から様々な事を学び、自ら試して得た成功の体験、また自然あふれる大山田で自らの発見に心を動かし、本気で取り組んだ豊かな経験は、自己肯定感の貴重な礎となります。



「気づく」まず自分がどういう状況なのかを認め、

「考える」その壁をどのように突破すべきなのかを考え、



「やってみる」選んだ方法を試してみる。

大山田こども園では、「気づく」「考える」「やってみる」それぞれを、子どもが自発的に取り組めるよう、こども園での生活を通じて日々の成長に寄り添います。

※「生きる力」は2021年、10年に1度改訂される文科省学習指導要綱に盛り込まれました。

